

# かわしんグループの業況

## 連結財務諸表

### ■当連結会計年度における事業の概況

2023年は、「かわしん3か年計画 支援力の強化と変革からの挑戦～地域とともに持続的に成長する信用金庫を目指して～」の中間年度に当たり、将来にわたり地域経済をしっかりと支え、金融仲介機能を円滑に発揮するために必要な経営基盤を強固なものとしていくべく各種施策に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、事業者の資金繰りを支え事業継続を徹底的に支援するなど地域のお客さまを全面的にサポートしていくことを最優先課題と考え、①支援力・営業力の革新、②地域サポート力の強化、③業務効率の向上、④人材育成の強化、⑤経営力の強化に重点的に取り組みました。

2022年12月には、当金庫100%出資による地域商社事業等を行う「地域商社みかわ株式会社」を設立しました。

上記の事業方針に沿って業務運営を行った結果、2022年度は、業容面では、預積金の期末残高は前期末比69億円増加の8,638億円、貸出金は前期末比45億円増加の4,073億円となりました。収益面では、国債等債券売却損・償還損の減少などから、経常利益は1,711百万円と前期比148百万円の増益となりましたが、当期純利益は1,179百万円と前期比49百万円の減益となりました。

### ■連結財務諸表の作成方針

(1) 連結の範囲に関する事項

- ①連結される子会社および子法人等 (2社) 会社名 地域商社みかわ株式会社、豊伸リース株式会社
- ②非連結の子会社および子法人等 該当会社なし

(2) 持分法の適用に関する事項

- ①持分法適用の非連結の子会社および子法人等、関連法人等 該当会社なし
- ②持分法非適用の非連結の子会社および子法人等、関連法人等 該当会社なし

(3) 連結される子会社および子法人等の事業年度に関する事項

連結される子会社および子法人等の決算日は次のとおりです。  
3月末日 2社

(4) のれんの償却に関する事項

該当会社なし

(5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した剰余金処分に基づいて作成しています。

### ■連結貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	2021年度 2022年3月末	2022年度 2023年3月末	区 分	2021年度 2022年3月末	2022年度 2023年3月末
<b>(資産の部)</b>	<b>金 額</b>	<b>金 額</b>	<b>(負債の部)</b>	<b>金 額</b>	<b>金 額</b>
現金および預け金	312,882	262,394	預 金 積 金	856,960	863,899
買入金銭債権	614	1,779	借 用 金	54,721	10,516
金 銭 の 信 託	2,000	2,000	そ の 他 負 債	3,522	4,607
有 価 証 券	224,092	229,198	賞 与 引 当 金	151	147
貸 出 金	402,843	407,353	退 職 給 付 に 係 る 負 債	7	8
そ の 他 資 産	6,187	7,567	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	183	167
有 形 固 定 資 産	7,339	7,705	偶 発 損 失 引 当 金	212	225
建 物	2,428	2,603	睡 眠 預 金 払 戻 損 失 引 当 金	26	39
土 地	3,898	3,895	繰 延 税 金 負 債	348	—
その他の有形固定資産	1,012	1,206	再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 負 債	251	250
無 形 固 定 資 産	129	95	債 務 保 証	2,633	2,711
ソ フ ト ウ ェ ア	106	72	負 債 の 部 合 計	919,019	882,570
その他の無形固定資産	23	23	<b>(純資産の部)</b>		
退 職 給 付 に 係 る 資 産	605	762	出 資 金	1,467	1,442
繰 延 税 金 資 産	—	158	利 益 剰 余 金	35,189	36,310
債 務 保 証 見 返	2,633	2,711	処 分 未 済 持 分	△23	△21
貸 倒 引 当 金	△1,608	△1,624	会 員 勘 定 合 計	36,634	37,731
資 産 の 部 合 計	957,719	920,102	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,479	△778
			土 地 再 評 価 差 額 金	331	329
			評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	1,811	△448
			非 支 配 株 主 持 分	255	248
			純 資 産 の 部 合 計	38,700	37,531
			負 債 お よ び 純 資 産 の 部 合 計	957,719	920,102

# 連結貸借対照表の注記

(記載上の注意)

- 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。
- 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社・子法人等株式および持分法非適用の関連法人等株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っています。  
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しています。
- 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っています。
- 当金庫の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))ならびに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備および構築物については定額法)を採用しています。

また、主な耐用年数は次のとおりです。

建物	10年～50年
その他	2年～20年

連結される子会社および子法人等の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しています。

- 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却は、定額法により償却しています。

なお、当金庫利用のソフトウェアについては、当金庫ならびに連結される子会社および子法人等で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しています。

- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産の減価償却は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しています。

なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは等としてしています。

- 当金庫の外貨建資産・負債は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しています。

- 当金庫の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」といいます。)に係る債権およびそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」といいます。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。

また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」といいます。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しています。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しています。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、融資部が資産査定を実施し、当該部署から独立した総合監査部が査定結果を監査しています。

なお、破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は4,420百万円です。

- 賞与引当金は、職員への賞与の支払いに備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しています。

- 退職給付債務の査定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっています。

なお、過去勤務費用および数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりです。

過去勤務費用	その発生時の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理
数理計算上の差異	各連結会計年度の発生時の職員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日当連結会計年度から費用処理

「退職給付に係る資産」および「退職給付に係る負債」については、信用金庫法施行規則別紙様式に基づき、退職給付債務に未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の未処理額を加減した額と年金資産の額の差額を計上しています。

なお、連結される子会社等は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る当期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

当金庫ならびに連結される子会社および子法人等は、複数事業主(信用金庫等)により設立された企業年金制度(総合設立型厚生年金基金)に加入しており、当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該企業年金制度への拠出額を退職給付費用として処理しています。

なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況および制度全体の拠出等に占める当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の割合ならびにこれらに関する補足説明は次のとおりです。

①制度全体の積立状況に関する事項(2022年3月31日現在)	
年金資産の額	1,740,569百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	1,807,426百万円
差引額	△66,857百万円
②制度全体に占める当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の掛金拠出割合(2022年3月現在)	
	0.5753%

## ③補足説明

上記①の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高162,618百万円および別途積立金95,760百万円です。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間19年0カ月の元利均等定率償却であり、当金庫ならびに子会社および子法人等は、当連結会計年度の財務諸表上、当該償却に充てられる特別掛金100百万円を費用処理しています。

なお、特別掛金の額は、予め定められた掛金率を掛金拠出時の標準給与の額に乗じることで算定されるため、上記②の割合は当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の実際の負担割合とは一致しません。

- 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しています。
- 睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認める額を計上しています。
- 偶発損失引当金は、信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しています。
- 役員取引等収益は、役員提供の対価として収受する収益であり、内訳として「受入為替手数料」「その他の受入手数料」「その他の役員取引等収益」があります。このうち、受入為替手数料は、為替業務から収受する受入手数料であり、送金、代金取立等の内国為替業務に基づくものと、外国為替送金手数料等の外国為替業務に基づくものがあります。

為替業務およびその他の役員取引等にかかる履行義務は、通常、対価の受領と同時期に充足されるため、原則として、一時点で収益を認識しています。

- 固定資産に係る控除対象外消費税等は「その他の資産」に計上し、5年間で均等償却を行っています。
- 会計上の見積りにより当連結会計年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性のあるものは、次のとおりです。

貸倒引当金 1,587百万円  
貸倒引当金の算出方法は、重要な会計方針として8.に記載しています。主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」です。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しています。

物価動向、ウクライナ情勢、新型コロナウイルス感染症の影響は、今後一定期間継続すると想定しており、政府等の経済対策や金融機関の支援があるもの、貸出先の経済活動への影響が見込まれ、徐々に信用リスクが顕在化すると仮定しています。

なお、個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌連結会計年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

- 理事および監事の間の取引による理事および監事に対する金銭債権総額 753百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額 8,389百万円
- 有形固定資産の圧縮記帳額 122百万円
- 連結貸借対照表に計上した固定資産のほか、ソフトウェアの一部および事務機器の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しています。
- 信用金庫法および金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりです。

なお、債権は、貸借対照表の、貸出金、「その他資産」中の未収利息および仮払金ならびに債務保証見返の各勘定に計上されるものです。

破産更生債権およびこれらに準ずる債権額	1,553百万円
危険債権額	7,444百万円
三月以上延滞債権額	一百万円
貸出条件緩和債権額	203百万円
合計額	9,201百万円

破産更生債権およびこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権です。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権およびこれらに準ずる債権に該当しないものです。

三月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権およびこれらに準ずる債権ならびに危険債権に該当しないものです。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権およびこれらに準ずる債権、危険債権ならびに三月以上延滞債権に該当しないものです。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

- 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しています。これにより受け入れた商業手形は、売却または(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有していますが、その額面金額は、528百万円です。
- 担保に供している資産は次のとおりです。

担保に供している資産	
有価証券	60,330百万円
預け金	5,000百万円
担保資産に対応する債務	
預金	2,556百万円
借入金	10,500百万円

上記のほか、為替決済の担保として預け金20,000百万円を差し入れています。また、その他の資産には、保証金163百万円が含まれています。

- 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当金庫の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税

金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しています。

再評価を行った年月日 1999年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格（路線価）に基づき算定し、路線価の定められていない地域においては同施行令第2条第2号に定める基準地価に基づき算定しています。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額

1,113百万円

25. 出資1口当たりの純資産額 13,205円41銭

26. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当金庫グループは、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っています。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産および負債の総合的管理（ALM）をしています。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

当金庫グループが保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。

また、有価証券は、主に債券、投資信託および株式であり、純投資目的および事業推進目的で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスクおよび金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されています。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されています。

また、変動金利の預金については、金利の変動リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当金庫グループは、融資事務取扱規程および信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、営業店・融資部で行うとともに定期的にリスク管理委員会を開催し、理事会等で報告・審議を行っています。

さらに、与信管理の状況については、融資部がチェックしています。

有価証券の発行体の信用リスクおよびデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、経営企画部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

②市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当金庫グループは、ALMによって金利の変動リスクを管理しています。

ALMに関する規則および要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、理事会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っています。

日常的には経営企画部において金融資産および負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、月次ベースで理事会等に報告しています。

(ii) 為替リスクの管理

当金庫グループは、為替の変動リスクに関して、個別の案件ごとに管理しています。

(iii) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む市場運用商品の保有については、理事会の方針に基づき、資金運用規程および資金運用基準に従って行われています。

このうち、資金証券部では、市場運用商品の購入を行っており、事前審査、投資限度額の設定等で、価格変動リスクの軽減を図っています。

資金証券部で保有している株式のうち、事業推進目的で保有しているものは、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。

これらの情報は経営企画部を通じ、リスク管理委員会および理事会等に定期的に報告されています。

(iv) 市場リスクに係る定量的情報

当金庫グループにおいて、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「有価証券」のうち債券、「貸出金」、「預金積金」および「借入金」です。

当金庫グループでは、これらの金融資産および金融負債について、「信用金庫法施行規則132条第1項第5号2等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」（平成26年金融庁告示第8号）において通貨ごとに規定された金利ショックを用いた経済価値の変動額を市場リスク量とし、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

当該変動額の算定にあたっては、対象の金融資産および金融負債を固定金利群と変動金利群に分けて、それぞれ金利期日に応じて適切な期間に残高を分解し、期間ごとの金利変動幅を用いています。

なお、金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当連結会計年度末現在、上方パラレルシフト（指標金利の上昇とい、日本円金利1.00%上昇）が生じた場合の経済価値は、16,609百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮していません。

また、通貨ごとに規定された金利ショック幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当金庫グループは、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によつた場合、当該価額が異なることもあります。

なお、一部の金融商品については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を含めて開示しています。

27. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、次のとおりです（時価等の評価技法（算定方法）については（注1）参照）。

なお、市場価格のない株式等および組合出資金は、次表には含めていません（注2）参照）。また、買入手形、コールローン、買現先勘定、債券貸借取引支払保証金、外国為替（資産・負債）、売渡手形、コールマネー、売現先勘定、債券貸借取引受入担保金ならびにコマースナル・ペーパーは、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しています。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しています。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金	257,231	256,729	△501
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	—	—	—
その他有価証券	228,430	228,430	—
(3) 貸出金	407,353		
貸倒引当金（*1）	△ 1,049		
	406,303	405,683	△ 619
金融資産計	891,965	890,843	△ 1,121
(1) 預金積金	863,899	863,957	58
(2) 借入金	10,516	10,477	△ 39
金融負債計	874,415	874,434	18

（\*1）その他有価証券には、企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（令和3年6月17日）第24-3項および第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれています。

（\*2）貸出金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しています。

（注1）金融商品の時価等の評価技法（算定方法）

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。満期のある預け金については、残存期間に基づく区分ごとに、新規に預け金を行った場合に想定される適用金利で割り引いた現在価値を算定しています。

なお、一部の預け金については、取引金融機関から提示された価格によつています。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によつています。投資信託は取引所の価格または公表されている基準価額によつています。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については28.から30.に記載しています。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。固定金利によるものは、貸出金の種類および期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しています。

なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。

また、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値または担保および保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としています。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間および金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としています。

なお、一部の貸出金については、取引金融機関から提示された価格によつています。

金融負債

(1) 預金積金

要求預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。

また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しています。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いています。

なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。

(2) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の信用状態は実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としています。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当

該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しています。

なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としています。

(注2) 市場価格のない株式等および組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：百万円)

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場株式 (*1)	348
信金中央金庫出資金 (*1)	3,154
組合出資金 (*2)	419
合 計	3,922

(\*1) 非上場株式、信金中央金庫出資金については、企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（令和2年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(\*2) 組合出資金については、企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（令和3年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(注3) 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	252,381	4,849	—	—	—	—
有価証券	—	—	—	—	—	—
満期保有目的の債券 その他有価証券の うち満期があるもの	6,332	31,489	20,280	4,842	30,873	95,570
貸出金 (*1)	216,737	27,850	29,062	28,961	31,081	73,660
合 計	475,451	64,189	49,342	33,803	61,954	169,230

(\*1) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないものは「1年以内」に含めています。

(注4) 借入金およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金積金 (*1)	800,168	25,707	21,809	9,377	6,835	—
借入金	7,617	1,049	1,758	91	—	—
合 計	807,785	26,757	23,568	9,469	6,835	—

(\*1) 預金積金のうち、要求払預金については「1年以内」に含めています。

28. 有価証券の時価および評価差額等に関する事項は次のとおりです。これらには、「国債」、「地方債」、「社債」、「株式」、「その他の証券」が含まれています。以下、30.まで同様です。

満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種 類	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	債 券	—	—	—
	そ の 他	—	—	—
	小 計	—	—	—
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	債 券	—	—	—
	そ の 他	—	—	—
	小 計	—	—	—
合 計		—	—	—

その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表 計上額が取得原価を 超えるもの	株 式	3,690	2,782	907
	債 券	82,043	81,433	610
	国 債	26,100	25,961	138
	地方債	42,762	42,341	421
	社 債	13,180	13,130	50
	そ の 他	21,260	19,628	1,632
	小 計	106,995	103,844	3,150
連結貸借対照表 計上額が取得原価を 超えないもの	株 式	528	566	△ 38
	債 券	107,345	109,543	△ 2,197
	国 債	68,532	69,868	△ 1,335
	地方債	10,228	10,400	△ 171
	社 債	28,584	29,275	△ 691
	そ の 他	13,561	15,237	△ 1,676
	小 計	121,435	125,347	△ 3,912
合 計		228,430	229,192	△ 761

29. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
債 券	4,060	98	—
国 債	4,060	98	—
地方債	—	—	—
社 債	—	—	—
その他	15,327	328	55
合 計	19,387	426	55

30. 減損処理を行った有価証券

市場価格のない株式等および組合出資金を除く売買目的有価証券以外の有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当連結会計年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しています。

時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、期末価額が取得原価に比べ50%以上低下した場合としています。

市場価格のない株式等および組合出資金を除く売買目的有価証券以外の有価証券のうち、当連結会計年度に減損処理したものはありません。

31. 運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	当連結会計年度の損益に 含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	2,000	—

32. 当座貸越契約および貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約です。

これらの契約に係る融資未実行残高は、23,740百万円です。このうち契約残存期間が1年以内のものが7,558百万円です。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当金庫ならびに連結される子会社および子法人等の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全およびその他相当の事由があるときは、当金庫ならびに連結される子会社および子法人等が実行申し込みを受けた融資の拒絶または契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられています。

また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に（半年毎に）予め定めている金庫内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じています。

33. 当連結会計年度末の退職給付債務等は以下のとおりです。

退職給付債務	△ 2,250百万円
年金資産（時価）	3,277百万円
未積立退職給付債務	1,027百万円
会計基準変更時差異の未処理額	—百万円
未認識数理計算上の差異	△ 272百万円
未認識過去勤務費用（債務の減額）	—百万円
連結貸借対照表計上額の純額	754百万円
退職給付に係る資産	762百万円
退職給付に係る負債	△ 8百万円

34. 会計方針の変更

企業会計基準第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（令和3年6月17日）（以下、「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用しています。これによる影響はありません。

# かわしんグループの業況

## ■連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	2021年度 自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日	2022年度 自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日
経常収益	9,733,028	9,726,636
資金運用収益	7,547,121	7,547,927
貸出金利息	4,795,241	4,791,560
預け金利息	396,246	463,938
買入手形利息およびコールローン利息	—	—
有価証券利息配当金	2,274,136	2,208,376
その他の受入利息	81,496	84,051
役務取引等収益	1,025,966	977,206
その他業務収益	248,051	404,578
その他経常収益	911,889	796,924
貸倒引当金戻入益	—	158
償却債権取立益	428,946	330,206
その他の経常収益	482,942	466,558
経常費用	8,170,138	8,015,108
資金調達費用	123,015	116,806
預金利息	113,813	108,278
給付補填備金繰入額	9,201	8,528
借用金利息	—	—
役務取引等費用	795,387	766,902
その他業務費用	559,951	508,895
経費	6,163,725	6,118,789
その他経常費用	528,059	503,714
貸倒引当金繰入額	249,541	133,762
その他の経常費用	278,517	369,952
経常利益	1,562,889	1,711,527
特別利益	20,159	—
固定資産処分益	—	—
子会社清算益	—	—
その他の特別利益	20,159	—
特別損失	21,339	32,698
固定資産処分損	6,309	30,972
減損損失	15,030	1,726
その他の特別損失	—	—
税金等調整前当期純利益	1,561,710	1,678,828
法人税、住民税および事業税	184,139	455,173
法人税等調整額	148,855	43,972
法人税等合計	332,994	499,146
当期純利益	1,228,715	1,179,682
非支配株主に帰属する当期純利益	4,898	2,451
親会社株主に帰属する当期純利益	1,223,817	1,177,230

(記載上の注意)

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
- 出資1口当たり親会社株主に帰属する当期純利益金額 410円23銭
- 当期において、以下の資産について減損損失を計上しています。

区分	地域	主な用途	種類	減損損失(千円)
事業用資産	岡崎市	営業店舗 1か所	有形固定資産	1,726
合 計				1,726

## ■連結剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	2021年度 自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日	2022年度 自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日
利益剰余金期首残高	34,014,212	35,189,447
利益剰余金増加高	1,234,120	1,178,970
親会社株主に帰属する当期純利益	1,223,817	1,177,230
土地再評価差額金取崩額	10,303	1,740
利益剰余金減少高	58,884	57,738
配当金	58,884	57,738
利益剰余金期末残高	35,189,447	36,310,680

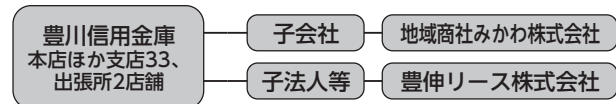
(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

## ■信用金庫グループの主な事業の内容

かわしんグループは、当金庫、子会社1社、子法人1社の計3社で構成され、預金業務、貸出業務、為替業務等の信用金庫業務を中心に商社事業およびリース業務などの金融サービスの提供を行っています。

## ■組 織

(2023年3月31日現在)



## ■子会社、子法人等の概況

会社名 所在地	地域商社みかわ株式会社 豊川市末広通3丁目34番地1	豊伸リース株式会社 豊川市旭町10番地
資本金 (百万円)	50	20
設立 年月日	2022年12月12日	1984年12月6日
主な 事業の内容	商社事業	リース業務
当金庫 議決権比率	100%	45%
子会社等の 議決権比率	—	—
支配 関係	子会社	子法人等

稼働資産については、営業店ごとに継続的な収支の把握を行っていることから、営業店(ただし、出張所は母店と一つのグループ(ピグ)単位で、遊休資産については各資産を、グループの最小単位としています。本部、事務センター等については独立したキャッシュ・フローを生み出さないことから共用資産としています。

営業店利益減少によるキャッシュ・フローの低下等により、左記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額1,726千円を「減損損失」として特別損失に計上しています。

なお、当期の減損損失の測定に使用した回収可能価額は正味売却価額です。正味売却価額は不動産鑑定評価額に基づき算定しています。

4. 当事業年度における顧客との契約から生じる収益は、977,206千円です。  
 5. 収益を理解するための基礎となる情報は下表のとおりです。

取引等の種類	顧客との契約から生じる収益の主な概要	主な収益認識基準等
内国為替業務	送金、代金取立等の内国為替業務に基づく受入手数料（一般顧客から受領する手数料のほか、銀行間手数料を含む）	これらの取引の履行義務は、通常、対価の受領と同時に充足されるため、原則として、一時点で収益を認識しております。
その他の役務取引等	手形小切手交付手数料、再発行手数料、口座振替手数料、口座維持手数料、融資取扱手数料、担保不動産事務手数料等の預金・貸出金業務関係の受入手数料 投信販売手数料や保険販売手数料等の証券・保険販売業務関係の受入手数料 保護預り・貸金庫業務関係の受入手数料 その他の役務取引等業務に係る受入手数料	

(注) 役務取引等収益およびその他業務収益に含まれる顧客との契約から生じる収益に関するものについて記載しており、債務保証料や金融商品の売却益といった金融取引等に係る収益については、「収益認識に関する会計基準」が適用されないため除いています。また、臨時的に生じる収益や特別利益などの一過性の収益については、通常の営業活動により生じる財・サービスの提供にあらず、顧客との契約から生じる収益に該当しないため記載していません。

## かわしんグループの業績

### ■連結経営指標等

(単位：百万円)

区 分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
連結経常収益	10,323	9,541	9,230	9,733	9,726
連結経常利益	1,102	1,031	855	1,562	1,711
親会社株主に帰属する当期純利益	530	609	846	1,223	1,177
連結純資産額	37,095	32,834	39,212	38,700	37,531
連結総資産額	875,776	873,339	958,980	957,719	920,102
連結自己資本比率	10.14%	10.33%	10.89%	10.68%	10.84%

### ■連結信用金庫法開示債権

(単位：百万円)

区 分	2022年3月末	2023年3月末
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	1,811	1,574
危険債権	7,514	7,483
三月以上延滞債権	6	—
貸出条件緩和債権	206	203
小 計 ( A )	9,538	9,261
正常債権 ( B )	396,109	400,991
総与信残高 ( A ) + ( B )	405,648	410,253

(注) 連結ベースの保全状況は単体ベースとの差額において重要性が乏しいため、省略しています。

### ■事業の業種別セグメント情報

(単位：百万円)

区 分	信用金庫業		リース業		その他の事業		計		消去または全社		連 結	
	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度
I 経常収益												
(1) 外部顧客に対する経常収益	9,539	9,464	194	258	—	2	9,733	9,726	—	—	9,733	9,726
(2) セグメント間の内部経常収益	—	—	38	41	—	0	38	41	△38	△41	—	—
計	9,539	9,464	232	299	—	3	9,771	9,767	△38	△41	9,733	9,726
経常費用	7,988	7,747	219	295	—	13	8,208	8,055	△38	△40	8,170	8,015
経常利益 (△は経常損失)	1,550	1,717	12	4	—	△10	1,563	1,712	△0	△0	1,562	1,711
II 資産	953,867	916,026	5,136	5,510	—	40	959,003	921,577	△1,284	△1,475	957,719	920,102